



最先端の次世代クラウド基盤に VMwareのSDDCアーキテクチャを採用 サービスの高度化と提供価格の低減を同時に実現

課題

- ・既存クラウド基盤の柔軟性・迅速性の向上
- ・エンジニアの運用負荷・コストの肥大化
- ・先進的なサービス・アプリケーションの提供

ソリューション

VMwareのSDDCアーキテクチャを活用して、運用自動化を進めた次世代クラウド基盤を構築。サーバー、ネットワーク、ストレージのすべてのプロビジョニングをセルフサービス化したことで、エンジニアの負荷を大幅に削減。クラウドサービスの提供価格は既存サービスの半額ほどになり、コスト削減効果を達成。結果的に、ユーザー毎に営業・SE担当をつけ、より細かな導入やフォローアップが出来るサービス提供を可能に。

導入効果

- ・SDDC化によって柔軟かつ迅速なサービスを提供
- ・インフラ管理コストが概ね4分の1に
- ・クラウドサービスの提供価格が既存サービスの半額ほどに
- ・エンジニアの負荷が軽減され、より高度なサービスに注力可能に

導入環境

- ・VMware vSphere
- ・VMware NSX
- ・VMware Virtual SAN
- ・VMware vRealize Operations
- ・VMware vRealize Log Insight

アイネットは、長年のBPO事業・データセンター事業で培った運用力・技術力を武器に、2009年からエンタープライズ向けのクラウドサービスを展開しています。しかし、当初のインフラは物理的な柔軟性に欠けており、ユーザーの求める冗長性・信頼性・俊敏性を提供するのが困難になりつつありました。そうした課題に対して、VMwareが提唱するSDDCアーキテクチャに共感。新しいクラウド基盤では「VMware vSphere」「VMware NSX」「VMware Virtual SAN」「VMware vRealize」を中核に据え、既存サービスの半額で提供できるほどのコスト削減に成功しました。

SDDCで次世代のクラウド基盤を

アイネットは、1971年の創業から石油業界を中心にBPOサービスを展開、ソフトウェア開発やシステムインテグレーションでIT技術を磨き、現在はデータセンター事業やクラウド事業にも注力しています。現代のSaaSやパブリッククラウドに連なるサービス事業を古くから提供してきた同社は、エンタープライズ向けの運用ノウハウを蓄積しており、その信頼性を高く評価するユーザーも多く、他社に先駆けて基幹業務向けのクラウドサービスも提供してきました。

同社のクラウドサービスは「Dream Cloud」と総称され、IaaS/PaaSの「EASY Cloud」のほか、30を超えるサービスが用意されています。社内に500名を超えるアプリケーション開発エンジニアを揃えて、先進的なサービスの提供に向けて邁進しています。

エンタープライズに求められる高い信頼性を保ちつつ、企業競争力を強化するクラウドサービスを提供しようと試みるアイネットでは、クラウド基盤の構築から4年を経て、いくつかの課題が表面化していました。

特にネットワークは、事業の拡大に合わせた拡張を続けた結果、冗長性・信頼性を担保することが今後難しくなっていくことが予想されました。ミッションクリティカル向けサービスへの期待が膨らむ中で、高いサービスレベルを保ちつつ、迅速性・俊敏性を提供するためには、ネットワークを中心としたクラウドインフラの刷新と強化が必要だと考えられました。

クラウドサービス事業部 プロダクトマーケティング部 部長の高橋信久氏は、「私たちは、最先端の技術とサービスを提供することが優位性の1つだと捉えています。既存のインフラ

を整備し直すことも検討しましたが、それではユーザーを納得させることはできないでしょう。そのため、できるだけ早く新たな技術を取り入れて、時代に先んじることが必要だと考えていました」と振り返ります。

そこで出会ったのが、データセンター内のすべてのITインフラをソフトウェアでコントロールする「SDDC」アーキテクチャでした。サーバー、ネットワーク、ストレージのすべてを仮想化することで、柔軟なサービス/リソースの提供と運用負荷の軽減、モビリティ性の向上が期待できます。

例えば、従前のEASY Cloudでもポータルを提供していましたが、ネットワークは対応しておらず、構成変更のたびにエンジニアへの申請が必要になっていました。これではスピーディなビジネス展開は不可能ですし、アイネットの運用負荷も肥大化します。SDDC技術を活用すれば、迅速かつ柔軟なセルフサービスを提供できるようになります。

「もともと私たちは、初期のEASY CloudからVMware vSphereを活用しており、Veeamのクラウド技術を高く評価していました。ユーザーのシェアも高く、ビジョンも私たちのものと似通っています。互いにより関係を築いており、企業としての信頼性も決め手の1つでした」(高橋氏)



株式会社アイネット
クラウドサービス事業部
プロダクトマーケティング部
部長
高橋 信久 氏